『大畠アイデンティティーの確立をめざす剣舞の伝承』

柳井市立大畠中学校

１　はじめに

大畠地区は、大畠瀬戸に面し、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた風光明媚な場所である。平成 17 年 2 月 21 日に柳井市と旧大畠町が合併し、柳井市大畠となり現在に至っている。大畠は古くから周防大島への玄関口であり、交通の要衝として栄えてきた。

大畠中学校は､瀬戸内海や周防大島橋が見渡せる高台にある全校生徒 29 名の小規模校で、他地区の例に漏れず大畠地区も少子高齢化が進み、ここ近年は各学年 10 名前後で推移している。保護者や地域の方は学校に大変協力的で、地域教育ネット「うずしお学園」のもと、大畠小・中学校が 9 年間を見通した教育を行っている。

２　研修主題

柳井市大畠地区は吉田松陰の盟友である僧月性（大畠遠崎の妙円寺住職）の出身地である。吉田松陰は幕末維新の志士を育て上げたことで全国的に有名であるが、吉田松陰に思想的影響を与えたのが僧月性である。僧月性は当時の東アジアの情勢から日本の海防についての危機感をいだき、その危機感から倒幕思想を強くもつことになる。そして、野山獄に囚われの身となっていた吉田松陰と交流し、彼をそれまでの穏健思想から倒幕思想へと一気に変えていくことになる。この歴史的事実はほとんど世の中に知られていないが、ここ大畠の人々はそのことを伝え聞いており、明治維新を成し遂げた真の功労者は大畠の僧月性であるという自負をもっている。特に、一介の僧であるに過ぎない月性が、日本のために自らの命をかけて奔走したという志に地域の誇りを見出している。そのため、僧月性が学問をするために作った「将東游題壁（まさに東遊せんと壁に題す)」という漢詩に詩吟をつけて舞う剣舞を作り上げ、これを中学生に教え伝えることを長年行ってきた。この漢詩は、別名「立志の誌」とも呼ばれ、志を立てたならば、どんなことがあってもそれをやり遂げるという意味が込められている。つまり、大畠中学校生徒が舞う剣舞は、大畠地区住民の誇りの表れで

あるとともに、大畠アイデンティティーとも言えるものである。

３　活動の概要

（１）剣舞について

剣舞はすでに小学校の６年生で一度習っている。中学生になると月性剣舞保存会の皆さんが指導に当たってくださり、本格的な剣舞を習うことになる。剣舞の披露は２年生の時、体育祭と立志式で行う。そのため、夏休みから練習を開始し、９月の体育祭で保護者ならびに地区住民に披露する。その後１月に練習を再開し、２月の立志式では志を立てるという姿を剣舞によって示すことになる。立志式では、１・３年生、保護者、地域住民が見守る中、自分の志を述べるとともに、剣舞を舞う。この日までに保存会の方々は、剣さばきだけでなく、指先に至るまでの細やかな動作、鋭い視線の使い方、かけ声の響きまで事細かに指導される。

（２）立志のつどいについて

例年、『立志のつどい』では、第１部の『立志式』として、２年生の「立志の誓い」を行い、「こんな人間になりたいという自分の考えを述べるとともに、親への感謝の言葉を添える。次に２年生全員による書道パフォーマンスを行い、とても大きな紙に力強い書道を披露する。そして最後に、２年生全員が剣舞を舞い、志の高さを示す。立志式における剣舞は、２年生の気持ちが現れたものであり、凛々しさが会場いっぱいに伝わるものとなっている。この『立志のつどい』に際しては「うずしお協育ネット」の全面的なバックアップがあり、『立志式』後に第２部として「餅つきおよび豚汁によるお楽しみ会」が開催され、全校生徒、保護者、地域住民、小学生など大変多くの人々が集い、２年生の立志をお祝いすることなっている。お楽しみ会にはビンゴゲーム大会を入れて、司会その他の役目を２年生が担い、とても楽しいひとときを過ごしている。

一人ひとり、誓いを発表しました。

（３）今年度の活動について

真剣な表情で書道パフォーマンスを披露しました。

しかしながら、今年度の『立志のつどい』は新型コロナウイルス感染症対策のため、第１部の『立志式』のみ行った。『立志式』では、「立志の誓い」を行い、「書道パフォーマンス」と「剣舞」の披露は行ったものの、剣舞については体育祭での披露が中止となり、練習を１月から行ったが、感染症対策により月性剣舞保存会の皆さんの指導も限られたため、剣による剣舞ではなく小学校で習った木剣による剣舞を披露した。

見事な剣舞の披露でした。

４　活動の成果

立志式の参加者は、１・３年と保護者に限ったが、２年生は参加者の前で、一人ひとり堂々と「立志の誓い」を発表し、感動的な「書道パフォーマンス」と「剣舞」を披露した。特に「剣舞」については、これまでの伝統を引継ぎ、まさに志を感じ取れる見事なものであった。２年生の「剣舞」を見て、３年生は１年前を思い出しながら志を再確認でき、１年生は来年の自分たちの姿を想像しつつ、今できることに一生懸命取り組むことの大切さを感じ取ることができた。大畠地区にある僧月性という日本を大きく変えた人材を生み出した町であるという大きな自負心と誇りが込められた「剣舞」を伝承することができ、２年生も達成感を感じることができた。

５　今後の課題

大畠地区も少子高齢化が深刻な問題となっている。どんどん減っていく子供たちに注がれる地区住民の愛情は、より深さを増している。これから先も生徒がふるさと大畠を愛し、大畠地区に脈々と流れる志の高さをもち続けられるよう、地域ぐるみで子どもを育てることが重要であり、将来、大畠を背負う人材となってくれるものと信じている。そのためにも、大畠アイデンティティーを肌で感じることのできる剣舞の伝承をしっかりと行っていきたいと考えている。

参加生徒で、記念写真を撮りました。